

第2 就労あつせんの事業（無料職業紹介）

昭和37年10月に設立された西成労働福祉センターは、昭和36年8月の第1回釜ヶ崎暴動后、大阪府の行政施策として急設された府労働部西成分室の機能を発展的にひきついだものである。その設立主旨は、地区労働者の不安定で異質な就労関係を正常化し、職業の安定、福祉の増進に努め、労働者の生活向上に資することを目的とする、としている。したがって、地域労働者の就労あつせんを行うことは、センターの基本的な事業であり、昭和37年以来労働大臣の許可を得て無料の職業紹介を実施してきている。

昭和52年度の無料職業紹介の概況は次の通りである。

1. 日雇現金求人紹介

（1）紹介（あつせん）の方法

日雇現金求人の職業紹介の方法は、センターに届け出た求人条件をもとに、求人者と求職者がセンター寄場内で、直接話しあって雇用の成立をはかるといふ、相対方式を採用している。この方法で、早朝6時より、年末年始の4日間を除いて毎日就労あつせんを実施している。

相対方式は、職業紹介の一方法とは云え、雇用の成立の時にセンターが介在するのは、求人条件を明記したセンター発行の求人プラカードによってであり、このプラカードの掲示がなければ、求人活動を行う寄場を提供した事実を除くと、直接募集と何ら変りがない弱点をもっている。したがって、求人申込、求人プラカードの掲示を求人者に行わせることが、早朝紹介業務のひとつの課題となっている。しかし、職業紹介に従事するセンターの限られた職員では、多数の求人者、労働者が集散する広い寄場を管理するには十分でなく、条件明示に欠ける私製プラカード使用の求人者がまだまだあとをたないのが実情である。手配師の介在、労務供給業などの違法求人の対策はセンターとしても苦慮しているところである。この寄場求人の正常化を一層促進するために、52年度は、別掲のような就労正常化促進週間の設定を行い一定の成果をみるに至っている。

就労あっせんの基本となるプラカードの掲示も、求人がしやすい時期としにくい時期とでは、その実行に大きな差が出てくる。

就労あっせんの場所は、昭和36年9月の分室発足当時のバラック事務所時代、元四恩学園跡地の旧センター時代、のいずれも市道尼崎一平野線の路上が使われ、青空紹介が行われていた。45年に万国博が大阪で開催されるのを契機に、青空労働市場の解消がはかられ、あいりん労働福祉センターの施設建設をみたので、45年10月から当センター寄場で行われるようになった。

寄場に集散する労働者は3,000人から8,000人とみられ、好・不況や季節・天候に左右され、可成りの変動がみられる。寄場内に駐車する求人車両も同じように変動が激しく、多い時には150台をこえ、寄場からあふれるほどである。不況のどん底となった50年当時は、さしもの広い寄場も閑散とする日が多かったが、建設業の景気回復をみた51年度から52年度にかけて、寄場はふたたび活況を呈し、年度末のピーク時には160台にも達し、47年の最盛期を思わせるほどとなった。

(2) 就 労 数

昭和52年度の就労あっせん状況は別表のとおりである。

日雇現金就労数は年間延556,994名となり、前年度より45%もの増となった。政府の景気対策としての公共投資が大きく増えたことによるものである。センター開設以来の最高就労数である47年度の786,993名には及ばないまでも、オイルショックに始まった不況が深刻化し最低となった50年度の303,248名からみると、84%増と大きく回復している。わけても、年度末の3月には、69,184名と、48年6月以来の最高就労数をみるに至った。

就労数を産業別にみると、運輸業が、44,076名で全体の7.9%、建設業は455,635名で81.8%、製造業は57,283名で10.3%となっている。前年比で、建設業が82.7%と大きく増えているのに対して、運輸業は19.3%の減、製造業は29.2%もの減となっている。

このように、今年度の就労数の伸びが依然として建設業の大巾な求人増によるものであることは明らかである。公共投資の前倒発注、15ヶ月予算など、政府の景気対策が一段と進む中で、建設業の日雇労働需要は高まりを強めていった。年度末の3月には、地方自治体等の発注工事の年度末の追いこみも加わって、集中的な増加をみせ、建設業の就労数は、センター創立以来の最高となり、求人総数の90%を占めるまでになった。

一方、運輸業や、構造不況業種をかかえた製造業の下降傾向はやまず、本年度はどん底の就労数となっている。

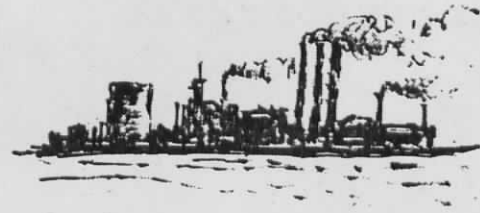
産業別内訳の推移の中で特徴的なことは、昭和39年当時は、地区労働者の45%が、船内、沿岸荷役などの港湾運業に就労し、建設業の就労数は、36%に過ぎなかったこと、41年の港湾労働法の施行后、港湾荷役の近代化、機械化が進む中で港湾の日雇依存が急速に弱まっていったこと、44年の万博景気時には建設業が50%に伸び、45年には、高度経済成長の波に乗って、製造業が40%を占めるまでになったこと、センター創立以来最高の求人となった47年は、列島改造のブームで、建設業が60%になったこと、などがあげられる。

そして、48年末の石油危機、狂乱物価に端を発した戦后最大の不況が進行する中で、就労数は最低となり、ようやく政府の不況対策で、前述のような建設業の回復をみるに至り、地区労働者の建設業への依存度はこの様な状況の中で大きく高まってきたのである。

建設業は屋外労働が中心であるために、就労数は季節・天候に大きく左右され、梅雨時などその就労は極めて不安定なものとなる。幸い、52年度は雨も少く比較的安定した就労となった。

昭和45年度～52年度 産業別現金日雇求人（就労）数と産業別比率

産業 年度	運輸業		建設業		製造業		合計	
	人員	比率 (%)	人員	比率 (%)	人員	比率 (%)	人員	比率 (%)
45	68,509	11.5	287,863	48.3	239,680	40.2	596,052	100.0
46	83,451	14.2	318,630	54.1	186,445	31.7	588,526	100.0
47	88,180	11.2	473,515	60.2	225,298	28.6	786,993	100.0
48	58,922	9.6	352,819	57.4	202,963	33.0	614,704	100.0
49	65,688	13.8	234,600	49.2	176,373	37.0	476,661	100.0
50	62,503	20.6	140,258	46.3	100,473	33.1	303,248	100.0
51	54,641	14.2	249,433	64.8	80,907	21.0	384,981	100.0
52	44,076	7.9	455,635	81.8	57,283	10.3	556,994	100.0



日雇（現金）産業別求人（就労）数 (昭和52年度)

業種 月	運輸業		建設業		製造業		他業		合計		残留者数 (推定)
	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	
昭和52年 4月	460	3,905	2,514	39,296	723	7,858	3,697	51,059	8,697	16,500	16,500
5月	424	4,098	2,509	31,514	799	8,393	3,732	44,005	8,732	16,350	16,350
6月	369	3,054	1,916	19,720	669	7,541	2,954	30,315	3,850	15,900	15,900
7月	433	3,202	2,412	29,528	484	4,717	3,329	37,447	4,235	16,550	16,550
8月	460	3,733	2,917	34,529	473	4,249	3,850	42,511	4,794	17,900	17,900
9月	437	3,959	3,334	39,397	464	4,592	4,235	47,948	4,235	16,250	16,250
昭和52年上半期計	2,583	21,951	15,602	193,984	3,612	37,350	21,797	253,285	21,797	99,450	99,450
(昭和51年上半期計)	2,435	29,720	7,376	90,893	3,694	38,399	13,505	159,012	13,505	96,950	96,950
10月	462	3,945	3,911	45,300	449	4,458	4,822	53,703	4,822	16,500	16,500
11月	466	3,606	3,849	44,050	439	3,919	4,754	51,575	4,754	14,200	14,200
12月	443	3,650	4,252	46,010	409	3,506	5,104	53,166	5,104	12,350	12,350
昭和53年 1月	301	3,204	2,026	23,517	292	2,444	2,619	29,165	2,619	8,550	8,550
2月	361	3,673	3,462	40,533	352	2,710	4,175	46,916	4,175	10,500	10,500
3月	377	4,047	4,950	62,241	423	2,896	5,750	69,184	5,750	14,500	14,500
昭和52年下半期計	2,410	22,125	22,450	261,651	2,364	19,933	27,224	303,709	27,224	76,600	76,600
(昭和51年下半期計)	2,397	24,921	10,741	158,540	3,806	42,508	16,944	225,969	16,944	75,450	75,450
昭和52年度 計	4,993	44,076	38,052	455,635	5,976	57,283	49,021	556,994	49,021	176,050	176,050
(昭和51年度 計)	4,832	54,641	18,117	249,433	7,500	80,907	30,449	384,981	30,449	172,400	172,400

次に、職種別就労数を産業別にみると、表のとおりとなる。

(a) 運輸業

職種としては、積込・入出庫が多く、72.5%を占め、ついで雑役15.5%、上乘・助手5.4%となつて、この3職種で93%を占めている。

前年度と比較すると、船内大工、冷凍仕分けを除くと、全体的に就労数は減少している。

(b) 建設業

建築・土工雑役で就労するのが圧倒的に多く、全体の94.3%となつており、各種職人手元が2.9%、鳶、大工、鉄筋、鉄骨工、左官等の職人、その他で2.8%となっている。

前年度と比べて、各職種ともその就労数は大巾に増えており、ことに建築・土工雑役は185,526名もの増となり、この職種の伸びが、建築業、52年度の全就労数の大巾増をもたらしたと云つてもよい。各種職人手元の伸びもめざましく、昨年よりも4倍も就労数はふえている。マンション建築等の住宅投資の増加、道路、下水工事、地下鉄工事、河川工事の公共投資が進んでいることがうかがえる。

(c) 製造業

工員手元、会社雑役が過半の56%を占め、ついでレンガ手元、ガラ出しの10.2%、玉掛9.7%、船内掃除9.6%となつており、これら4職種で85.5%を占めている。その他、船内足場鳶、製品の荷造、梱包、積卸、運搬等で14.5%となっている。

前年度に比較して、工員手元、会社雑役が32.2%減、造船関係の船内掃除が53.5%もの減、とこの2職種の落ちこみが大きく、これが製造業全体の減につながっている。

建設業の過熱に対して、構造不況業種をかかえた製造業は依然として冷えこみが続いており、地区労働者の就労に深い影響を落している。

日雇（現金）運輸業職種別求人（就労）数

月	職 種	運輸手 (大型) (特殊)	運輸手 (普通)	上 乗 助 手	積 込 入出庫	船 大 内 工	凍 結 仕分け	雑 役	夜 勤	オー ナ イト	合 計	其 他
昭和52年	4 月	2	6	240	3,047	0	0	610	0	0	3,905	0
	5	1	3	260	3,214	0	0	620	0	0	4,098	0
	6	2	81	140	2,607	0	0	224	0	0	3,054	0
	7	1	71	300	2,091	52	0	687	0	0	3,202	0
	8	21	37	310	2,721	56	0	588	0	0	3,733	0
	9	29	28	300	2,948	50	0	604	0	0	3,959	0
昭和52年上半期計		56	226	1,550	16,628	158	0	3,333	0	0	21,951	0
(昭和51年上半期計)		79	1,165	5,830	17,595	0	0	5,050	0	0	29,720	1
10		33	34	310	2,894	54	0	620	0	0	3,945	0
11		55	43	291	2,571	46	0	600	0	0	3,606	0
12		43	30	250	2,296	122	304	605	0	0	3,650	0
昭和53年	1	2	25	0	2,477	220	0	460	0	0	3,204	20
	2	17	35	0	2,453	240	368	560	0	0	3,678	0
	3	3	29	0	2,638	270	432	674	0	1	4,047	0
昭和52年下半期計		153	196	851	15,329	952	1,104	3,519	0	1	22,125	20
(昭和51年下半期計)		471	950	3,200	16,114	0	0	4,180	6	0	24,921	0
昭和52年度 計		209	422	2,401	31,967	1,110	1,104	6,852	0	1	44,076	20
(昭和51年度 計)		550	2,115	9,030	33,709	0	0	9,230	6	0	54,641	1

(昭和52年度)

日雇（現金）建設業職種別求人（就労）数

（昭和52年度）

月	職 種	土工雑役 建築雑役 片付	大工	左官	鳶	溶接	鉄 筋 鉄 骨	石屋	プロ ック	各 種 職人手元	運転手 大型 普通 特殊	レーキ マン	夜勤	オール ナイト	その他	合 計
昭和52年	4 月	37,923	408	43	144	5	219	0	0	353	201	0	0	0	0	39,296
	5	30,321	255	60	53	0	52	0	0	616	157	0	0	0	0	31,514
	6	18,153	135	95	167	1	189	0	0	812	168	0	0	0	0	19,720
	7	27,567	128	6	258	0	135	0	0	1,260	169	0	0	5	0	29,528
	8	32,221	230	8	604	0	3	2	0	1,296	165	0	0	0	0	34,529
	9	36,937	196	7	542	1	291	0	0	1,209	214	0	0	0	0	39,397
	昭和52年上半期計	183,122	1,352	219	1,768	7	889	2	0	5,546	1,074	0	0	5	0	193,984
	（昭和51年上半期計）	89,182	121	8	39	12	32	0	7	1,365		1	10	76	40	90,893
	10	42,523	387	6	466	0	371	0	0	1,295	252	0	0	0	0	45,300
	11	41,334	494	0	379	0	339	0	0	1,308	193	3	0	0	0	44,050
	12	43,098	533	2	352	0	305	0	0	1,502	213	1	0	4	0	46,010
昭和53年	1	22,009	300	0	138	0	19	1	0	970	79	0	1	0	0	23,517
	2	38,380	351	59	346	0	13	0	2	1,030	349	0	0	0	3	40,533
	3	59,094	468	156	533	1	2	2	1	1,338	613	1	10	13	9	62,241
	昭和52年下半期計	246,438	2,533	223	2,214	1	1,049	3	3	7,443	1,699	5	11	17	12	261,651
	（昭和51年下半期計）	154,852	1,536	21	194	8	17	0	0	1,860		10	5	33	4	158,540
	昭和52年度 計	429,560	3,885	442	3,982	8	1,938	5	3	12,989	2,773	5	11	22	12	455,635
	（昭和51年度 計）	244,034	1,657	29	233	20	49	0	7	3,225		11	15	109	44	249,433

日雇（現金）製造業職種別求人（就労）数

（昭和52年度）

月	職 種	工員手元 会社雑役	玉掛	船内 足場 鳶	積卸 運搬	荷造 梱包	レンガ ガラ出し スタンプ 灰出し	船内 掃除	溶接	グライ ンダー 掛け	運転 手 (普通)	各種 職人 手元	夜勤	オール ナイト	その他	合 計
昭和52年	4 月	5,336	568	0	468	232	560	640	3	0	0	0	0	1	0	7,858
	5	4,070	1,603	0	148	260	1,055	781	0	0	0	476	0	0	0	8,393
	6	4,300	1,127	340	0	222	671	370	1	0	0	509	0	0	1	7,541
	7	2,893	220	490	245	102	429	323	15	0	0	0	0	0	0	4,717
	8	2,224	229	492	324	112	386	455	27	0	0	0	0	0	0	4,249
	9	2,377	200	402	500	100	422	545	46	0	0	0	0	0	0	4,592
	昭和52年上半期計	21,200	3,947	1,724	1,685	1,078	3,523	3,114	92	0	0	985	0	1	1	37,350
	（昭和51年上半期計）	23,018	3,388	0	0	1,607	2,977	5,396	21	0	0	30	25	45	1,892	38,399
	10	2,327	200	400	240	100	597	509	29	56	0	0	0	0	0	4,458
	11	2,021	192	400	240	96	424	515	31	0	0	0	0	0	0	3,919
	12	2,040	238	360	0	84	453	308	23	0	0	0	0	0	0	3,506
昭和53年	1	1,322	280	170	180	0	205	285	2	0	0	0	0	0	0	2,444
	2	1,448	336	40	0	0	360	340	3	0	20	0	0	0	163	2,710
	3	1,718	379	46	0	0	299	421	6	0	27	0	0	0	0	2,896
	昭和52年下半期計	10,876	1,625	1,416	660	280	2,338	2,378	94	56	47	0	0	0	163	19,933
	（昭和51年下半期計）	24,318	3,725	0	0	1,621	3,178	6,424	7	0	0	864	39	15	2,317	42,508
	昭和52年度 計	32,076	5,572	3,140	2,345	1,358	5,861	5,492	186	56	47	985	0	1	164	57,283
	（昭和51年度 計）	47,336	7,113	0	0	3,228	6,155	11,820	28	0	0	894	64	60	4,209	80,907

(3) 残留者数（未就労）

早朝紹介の終わったあと、センター寄場内に残っている労働者を「残留者」として、その推定人数を毎日出している。52年度の累計は176,050名で、前年度より2.1%の増となっている。

求人数の多少とこの残留者数（未就労）との関係は必ずしも反比例の関係ではなく、仕事が増え、求人が活発になった時期には労働者の集まりも増えるので、残留者も増えるといったことにもなっている。

残留者全てが、その日の仕事にありつけないアブレた労働者ということではなく、その中には、夜勤明けの者や、労災や病気で休んでいる者、就労する意思の無い者なども含まれている。

もっとも、その日の仕事にアブレた労働者の数は、この寄場残留者の数をはるかにこえたものとなっている。センターの一階の寄場での就労あっせんが終る午前8時になると、2階にあるあいりん労働公共職業安定所の寄場は失業の認定を受ける労働者であふれる。1階寄場における残留者の平均は約500人であるのに対して、あいりん労働公共職業安定所での52年度の1日平均失業認定数は2,770名となっている。雨の日や、盆、正月明けなど仕事のない時はその数は5,000人から8,000人にもなる。

仕事が増えて、求人の充足が思う様にゆかない売手市場になると、求人者から「アブレ手当を支給しているから仕事に行こうとしないのだ」という苦情も出てくる。しかし、充足し難い原因を、アブレ手当のせいだけにするのは適切でなく、賃金、その他の労働条件とも無関係ではない。重労働と低賃金、就労の不安定さなどを考えると、このアブレ手当の支給は、当地域にとって最低必要なものと云ってよい。

(4) 賃 金

現金求人の賃金は地区労働者の圧倒的部分が就労する土木建築雑役で、前年度より平均600円近く上昇した。求人状況の好転がそのまま反映したものと考えられる。

以下、産業別・職業別に52年度の平均賃金の状況を述べてみたい。

(a) 運 輸 業

運輸業就労数の73%を占める積込・入出庫の平均賃金は、5,300円～5,900円の間であり、前年度より400円～700円の上昇をみている。雑役の平均賃金は4,000円～4,300円の間にあるが、年度末には求人状況を反映して、一挙に5,300円にはねあがっている。このことは、寄場での他産業（建設業）の賃金の動きと無縁でないことを示している。大型運転手は、流通の荷動き、求人減もあって、前年度よりむしろ安くなっている月もある。

(b) 建 設 業

土工・建築雑役の平均賃金は、売手市場の就労状況を反映した動きをみせている。平均4,800円～5,100円と、前年度に比較して、700～500円の上昇となった。

上半期の方が上昇率が高いのは、建設業の求人の回復が、51年の7月からであったので、それまでは不況のドン底での賃金が反映していたことによるものである。

大工・左官、鳶などのいわゆる職人の賃金は、同一職種内においても、高低格差が大きく、平均賃金の年度内各月の傾向も特定し難いが、おおむね求人動向に応じた動き、上昇をみせている。

(c) 製 造 業

この業種での就労数の過半数を占める工員手元、会社雑役の52年度の平均賃金は、4,800円～5,100円で、前年度下半期より200円前後しか上昇してない。

レンガ手元、玉掛、船内掃除などは、前年度下半期比では可成りの上昇となった。

(運輸業) 日雇 (現金) 職種別賃金状況

(昭和52年度)

職 種 賃 金	月	運転手 (大型 特殊)	運転手 (普通)	上乗 助手	積込 入出庫	船内 大工	凍魚 仕分け	雑役	夜勤	オール ナイト	その他
4	最高 最低 平均	7,000 6,000 6,500 (6,200)	6,500 5,000 5,900 (5,000)	5,000 5,000 5,000 (4,200)	7,500 4,500 5,300 (4,780)			4,500 4,000 4,080 (3,500)			
5	最高 最低 平均	6,000 6,000 6,000 (6,000)	8,000 6,500 7,000 (5,140)	5,000 5,000 5,000 (4,200)	7,500 4,500 5,410 (4,810)			4,000 4,000 4,000 (3,500)			
6	最高 最低 平均	5,500 5,500 5,500 (6,280)	7,000 4,500 5,380 (5,180)	5,000 5,000 5,000 (4,200)	10,000 4,200 5,580 (4,880)			4,200 4,000 4,040 (3,500)			
7	最高 最低 平均	6,000 6,000 6,000 (6,040)	5,500 4,500 5,310 (5,250)	5,300 5,000 5,010 (4,200)	10,000 4,500 5,820 (4,880)	7,150 7,150 7,150		4,500 4,200 4,210 (3,500)			(5,000)
8	最高 最低 平均	6,900 5,000 6,580 (6,100)	6,000 5,500 5,520 (5,150)	5,000 5,000 5,000 (4,200)	9,500 4,500 5,680 (4,910)	7,150 7,150 7,150		4,200 4,200 4,200 (3,500)			
9	最高 最低 平均	6,900 6,900 6,790 (6,810)	7,000 5,500 5,590 (5,520)	5,000 5,000 5,000 (4,280)	8,000 4,200 5,730 (5,030)	7,150 7,150 7,150		4,500 4,200 4,290 (3,650)			
10	最高 最低 平均	7,500 5,300 6,750 (6,360)	7,000 5,500 5,610 (5,370)	5,000 5,000 5,000 (4,300)	8,000 4,300 5,670 (5,190)	7,150 7,150 7,150		4,200 4,200 4,200 (3,700)	(7,600)		
11	最高 最低 平均	8,000 6,000 6,460 (6,400)	6,500 5,500 5,730 (5,560)	5,000 5,000 5,000 (4,310)	8,000 4,500 5,690 (5,310)	7,150 7,150 7,150		4,200 4,200 4,200 (3,700)		(13,500)	
12	最高 最低 平均	6,900 6,000 6,370 (6,310)	6,000 5,500 5,600 (5,310)	5,000 5,000 5,000 (4,330)	8,000 5,000 5,680 (5,320)	7,900 7,150 7,420	7,000 6,800 6,860	4,500 4,200 4,320 (3,740)			
1	最高 最低 平均	6,500 6,000 6,250 (6,300)	6,000 5,500 5,580 (5,270)	(5,000)	8,000 5,000 5,880 (5,330)	7,900 7,900 7,900		4,300 4,300 4,300 (4,000)			4,800 4,800 4,800
2	最高 最低 平均	6,000 6,000 6,000 (6,380)	7,000 5,500 5,710 (5,450)	(5,000)	8,000 5,000 5,760 (5,360)	7,900 7,900 7,900	6,500 6,500 6,500	4,300 4,300 4,300 (4,000)			
3	最高 最低 平均	6,500 6,000 6,250 (6,290)	6,000 5,500 5,520 (5,600)	(5,000)	8,000 5,000 5,640 (5,190)	7,900 7,900 7,900	6,500 6,500 6,500	6,500 4,300 5,320 (4,000)		15,000 15,000 15,000	

(注) ① () 内数字は前年同月の平均賃金

② 10円未満4捨5入

③ 「平均(賃金)」=求人1件あたり平均賃金



(建設業) 日雇 (現金) 職種別賃金状況

月	職 種	賃 金	土 工 雑 役 建 築 雑 役 片 付	大 工	左 官	鳶	溶 接 カ ジ ャ	鉄 筋 鉄 骨
4	最 高 平	最 高 均	8,000 4,000 4,750 (4,050)	10,000 7,000 8,570 (6,470)	8,000 7,000 7,050 (6,800)	8,000 7,000 7,920	7,000 6,000 6,830	7,000 5,500 5,930
5	最 高 平	最 高 均	8,000 4,000 4,790 (4,030)	10,000 7,000 8,080 (8,000)	8,000 5,000 6,080	9,500 6,500 7,810 (6,400)	(6,200)	7,000 6,000 6,200
6	最 高 平	最 高 均	7,000 4,000 4,750 (4,070)	10,000 6,500 7,750 (7,000)	7,000 5,000 5,520	8,500 7,000 7,830	5,000 5,000 5,000	9,500 9,500 9,500
7	最 高 平	最 高 均	9,000 4,000 4,780 (4,120)	10,000 6,500 7,800 (6,860)	8,000 6,500 7,000 (8,000)	8,500 6,000 7,530	(5,500)	9,500 9,500 9,500 (5,000)
8	最 高 平	最 高 均	8,000 4,200 4,830 (4,190)	9,000 6,500 7,800 (6,600)	9,500 6,500 7,130 (7,500)	9,000 6,000 7,480 (7,000)	(7,000)	8,000 8,000 8,000 (7,000)
9	最 高 平	最 高 均	8,000 4,200 4,830 (4,240)	10,000 6,500 8,190 (7,300)	9,000 8,000 8,800 (7,000)	9,000 6,000 7,730 (8,000)	6,500 6,500 6,500 (6,000)	9,000 6,000 7,080 (7,500)
10	最 高 平	最 高 均	8,000 4,200 4,900 (4,360)	10,000 6,500 8,280 (7,040)	8,000 7,000 7,400 (7,250)	10,000 7,000 7,780 (7,700)		8,000 7,000 7,090 (6,000)
11	最 高 平	最 高 均	8,000 4,200 4,930 (4,470)	10,000 6,500 8,320 (6,990)		9,000 7,000 8,140 (7,770)	(7,000)	8,000 7,000 7,200
12	最 高 平	最 高 均	8,000 4,200 4,980 (4,510)	12,000 6,500 8,770 (8,670)	9,000 8,000 8,500 (7,000)	9,000 7,000 8,200 (8,000)		9,000 6,000 7,520 (6,000)
1	最 高 平	最 高 均	8,000 4,200 4,990 (4,470)	10,000 7,000 9,550 (9,370)		9,000 7,000 8,000 (8,000)	(5,750)	10,000 8,000 8,500
2	最 高 平	最 高 均	8,000 4,200 5,010 (4,500)	10,000 7,000 9,500 (9,230)	9,000 7,000 7,230 (6,000)	10,000 7,000 7,880 (7,750)		8,000 7,000 7,640 (8,000)
3	最 高 平	最 高 均	8,000 4,200 5,100 (4,630)	11,000 7,000 9,510 (9,160)	10,000 7,000 7,760 (7,900)	10,000 7,000 8,190 (7,950)	8,000 8,000 8,000 (6,170)	10,000 6,500 8,250

(注) ① ()内数字は前年同月の平均賃金

② 10円未満4捨5入

(昭和52年度)

石 屋	ブ ロ ッ ク	各 種 職 入 手 元	運 転 手 型 大 普 通 特 殊	レーキマン	夜 勤	オールナイト	そ の 他
		10,000 4,800 6,750 (6,740)	7,000 5,000 5,720				(6,400)
		7,000 6,240 6,250 (6,400)	7,000 5,000 5,900				(6,300)
	(6,670)	9,500 4,500 6,430 (6,430)	7,300 5,000 6,540				
		9,500 6,000 6,830 (6,580)	7,000 5,000 6,240			25,000 25,000 25,000	(5,600)
14,000 12,000 13,000		7,500 5,000 6,680 (6,500)	7,000 5,000 6,150			(12,000)	(3,500)
		9,500 5,000 6,690 (6,510)	8,000 5,000 5,960	(8,000)	(9,500)	(10,000)	
		9,500 5,500 7,040 (6,200)	8,000 5,000 6,190	(7,800)		(10,000)	(10,000)
		9,500 5,500 7,100 (6,350)	7,500 5,000 5,870 (8,000)	8,000 8,000 8,000		(12,000)	
		9,500 6,000 7,160 (6,290)	7,500 5,000 5,930 (7,000)	7,000 7,000 7,000		11,500 11,500 11,500	
10,000 10,000 10,000 (15,000)		9,500 6,000 7,070 (6,500)	7,500 5,300 5,960		9,000 9,000 9,000		(配管工)
	8,000 8,000 8,000 (6,430)	9,500 6,000 7,180 (6,430)	9,000 5,300 6,090			(10,500)	7,000 7,000 7,000 (9,000)
12,000 8,000 10,000	9,000 9,000 9,000	9,500 6,500 7,150 (6,480)	8,000 5,500 6,250	10,000 10,000 10,000	13,000 13,000 13,000 (9,500)	13,000 12,000 12,300 (12,000)	9,000 7,500 8,000

③ 「平均(賃金)」=求人1件あたり平均賃金

(製造業) 日雇 (現金) 職種別賃金状況

(昭和52年度)

職 種 賃 金 月	工員手 元、会 社雑役	玉掛	船内 足場 薦	積卸 運搬	荷造 梱包	レンガ ガラ出し スタンプ 灰出し	船内 掃除	溶接	グ ラ イ ン ダ ー 掛	運 転 手 普 通	各種 職人 手元	夜勤	オール ナイト	その他
4	最高 最低 平均	6,000 4,000 4,780 (3,750)	5,000 5,000 5,150 (5,000)		4,800 4,700 4,720 (4,040)	4,800 4,500 4,550 (4,960)	6,000 4,500 5,270 (4,960)	6,000 5,000 5,470 (4,480)	6,500 6,500 6,500					(4,420)
5	最高 最低 平均	6,000 3,800 4,870 (3,750)	5,500 4,800 5,110 (5,060)		4,800 4,700 4,760 (4,000)	4,500 4,500 5,760 (4,940)	8,000 4,300 5,310 (4,500)	6,000 4,200 5,310 (5,700)			6,500 6,000 6,040		(8,000)	(9,500) (4,420)
6	最高 最低 平均	8,000 4,000 4,910 (3,790)	6,000 5,000 5,380 (5,090)	8,500 8,500 8,500		6,000 4,500 5,320 (4,000)	8,000 4,300 5,800 (5,210)	6,000 4,700 5,350 (4,490)	6,500 6,500 6,500 (6,180)		6,000 6,000 6,000		(8,000)	(10,000) (4,480)
7	最高 最低 平均	6,000 4,000 4,770 (3,800)	6,000 5,600 5,970 (5,150)	8,500 7,000 8,420	5,300 4,700 4,730	6,000 5,400 5,870 (4,000)	6,500 5,400 5,770 (5,050)	7,000 4,700 5,470 (4,500)	7,000 6,500 6,550 (6,440)					(9,500) (4,450)
8	最高 最低 平均	6,900 4,000 4,800 (4,000)	6,000 6,000 6,000 (5,150)	8,500 8,000 8,480	4,700 4,700 4,700	6,000 6,000 6,000 (4,000)	6,700 5,400 5,720 (4,810)	6,000 5,000 5,480 (4,560)	7,500 6,000 6,520 (7,380)				(5,670)	(13,000) (4,580)
9	最高 最低 平均	6,900 4,000 4,820 (4,550)	6,000 6,000 6,000 (5,360)	8,500 6,800 8,420	5,000 5,000 5,000	6,000 6,000 6,000 (4,000)	6,500 5,400 6,000 (5,250)	6,000 4,700 5,400 (4,690)	8,000 5,000 6,430 (7,000)					(5,300) (8,500) (4,700)
10	最高 最低 平均	6,900 4,000 4,890 (4,760)	6,000 6,000 6,000 (5,410)	8,500 8,500 8,500	5,000 5,000 5,000	6,000 6,000 6,000 (4,000)	6,500 5,300 6,000 (4,840)	6,000 4,700 5,350 (4,740)	7,500 6,000 6,540 (6,000)	7,000 7,000 7,000				(5,060) (8,000)
11	最高 最低 平均	6,600 4,000 4,750 (4,780)	6,000 6,000 6,000 (5,420)	8,500 8,500 8,500	5,000 5,000 5,000	6,000 6,000 6,000 (4,000)	6,500 5,100 6,050 (5,080)	6,000 4,700 5,320 (4,730)	8,000 6,500 6,570 (6,500)					(4,700) (8,500) (9,500) (6,500)
12	最高 最低 平均	6,600 4,000 4,860 (4,700)	6,200 6,000 6,040 (5,350)	8,500 8,500 8,500		6,000 6,000 6,000 (4,110)	6,500 5,400 6,170 (5,150)	6,000 4,800 5,370 (4,830)	6,500 6,500 6,500 (7,000)					(6,090) (8,500)
1	最高 最低 平均	6,600 4,000 4,930 (4,800)	6,200 6,200 6,200 (5,150)	8,500 8,500 8,500	5,000 5,000 5,000		6,500 5,400 5,940 (5,340)	6,000 4,800 5,380 (5,220)	8,000 8,000 8,000					(6,230) (9,500) (製材)
2	最高 最低 平均	6,600 4,400 5,110 (4,840)	6,200 6,200 6,200 (5,150)	8,500 8,500 8,500			6,500 6,000 6,050 (5,130)	6,000 5,000 5,600 (5,070)	8,000 8,000 8,000 (6,000)	6,000 6,000 6,000				4,500 4,500 4,500
3	最高 最低 平均	9,500 4,500 5,070 (4,810)	6,200 5,500 6,180 (5,140)	8,500 8,500 8,500			6,500 5,400 6,030 (5,060)	6,000 4,800 5,370 (5,050)	7,000 7,000 7,000 (6,000)	6,000 6,000 6,000				(5,140)

(注) ① () 内数字は前年同月の平均賃金 ② 10円未満4捨5入
③ 「平均(賃金)」=求人1件あたり平均賃金

このように、52年度の平均賃金は、求人の減少が続いた運輸・製造業においても一定の賃金の上昇をみたように、相互に関連しながら全体として上っていったことを示している。

これは、当地域の労働者が職人層を除けば、1人の労働者が土木建築の仕事もすれば、条件次第では製造業の雑役仕事もし、また、製造業、運輸業に就労していた労働者でも、建設業の条件がよくなればそっちに流れるといったように、就労職種が固定化してないことによるものである。したがって、製造業や運輸業の求人が少なくなっても、建設業の需要が増加すれば、買手市場とはなり得ず、建設業求人と競うことを余儀なくされるので、いきおい賃金の水準も建設業にあわさるを得なくなってくるのである。

なお、現金求人に就労した場合には、昼食が支給されることが多いので、実質は、表に示された賃金額より300～500円高いとみてよい。中には朝食をつけるところもある。

また、事業所によっては、センターに届け出た賃金額に若干の上乗せをすることで、実際には少し高い平均値になるものと思われる。これらは、労働災害にあったケースの平均賃金などからも立証される。

西成から各現場までの交通費については、殆どどの事業所が車で送迎するか、交通費を支給している。

2. 期間雇用および一般常用紹介

センターでは、早朝時の現金求人の就労あっせんのほかに、契約日数を定めて雇用する期間雇用(住込み飯場)と、雇用期間の定めのない一般常用の職業紹介を、3階センター紹介係窓口で、午前9時よりおこなっている。

紹介の方法は、現金求人のときと同じような、求人者にプラカードの交付をして行う相対方式と、公開求人によって窓口で求職者の相談をうけ、直接センターが紹介票を切って紹介する一般の紹介方法とを併用して行っている。

(1) 期間雇用紹介

昭和51年10月に施行された「建設労働者の雇用の改善等に関する法律」

によって、地区労働者の雇用の改善が一般とはがされることになり、センターでもこれにあわせて、求人事業所の登録制を実施した。（別掲）

期間雇用紹介係業務取扱状況

	求職者	電話(とりつぎ)調	その他相談	飲酒者	連絡事項	合計
4	1,576	163	181	72	116	2,108
5	1,440	142	217	64	67	1,930
6	1,723	294	187	63	41	2,308
7	1,656	272	151	46	62	2,187
8	1,543	172	179	67	64	2,025
9	1,507	154	164	48	62	1,935
小計	9,445	1,197	1,079	360	412	12,493
51年度小計	14,019	1,920	1,189	435	564	18,127
10	1,595	133	235	69	59	2,091
11	1,442	162	187	56	56	1,903
12	1,105	169	161	70	27	1,532
1	1,437	178	94	46	55	1,810
2	1,313	146	97	64	66	1,686
3	1,302	151	107	60	71	1,691
小計	8,194	939	881	365	334	10,713
51年度小計	10,881	902	1,025	455	569	13,832
合計	17,639	2,136	1,960	725	746	23,206
51年度合計	24,900	2,822	2,214	890	1,133	31,959

紹介、求人関係の取扱状況（期間雇用、一般常用）

	求 人 関 係			紹 介 関 係							
	新規求人 事業所数	求 人 届 出 事業所総数	当月求人 事業所数	当 月 求 人 件 数	当 月 求 人 数	運 輸	建 設	製 造	紹 介 合 計	期間雇用 紹介延日数	期間雇用平 均契約日数
4	29	382	141	354	1,160	7	271	48	326	3,715	1259
5	12	394	106	309	1,047	17	374	54	445	5,388	1340
6	14	408	91	327	997	4	520	60	584	7,382	1390
7	14	421	87	451	1,264	2	486	66	554	7,294	1358
8	14	434	109	411	1,221	3	511	32	546	6,853	1276
9	17	451	149	492	1,601		472	50	522	6,771	1325
小 計	100		683	2,344	7,290	33	2,634	310	2,977	37,403	1330
51年度小計	99		779	2,028	5,992	29	2,599	183	2,811	36,399	1295
10	49	501	181	558	2,124	9	460	42	511	7,130	1449
11	32	533	179	515	2,940		443	31	474	7,262	1551
12	30	563	156	329	3,962		352	21	373	8,944	1057
1	29	592	194	550	3,212		529	29	558	7,103	1299
2	39	631	207	600	4,838	1	441	40	482	6,492	1399
3	37	668	245	743	8,516		402	12	414	5,444	1344
小 計	216		1,162	3,295	25,592	10	2,627	175	2,812	37,375	1360
51年度小計	124		881	2,053	6,707	10	2,058	153	2,221	29,170	1313
合 計	316		1,845	5,639	32,882	43	5,261	485	5,789	74,778	1345
51年度合計	223		1,660	4,081	12,699	39	4,657	336	5,032	65,569	1390

紹介、求人関係の取扱状況

		期 間 雇 用					一 般 常 用				
		求 人			紹 介		求 人			紹 介	
		求人事業所数	求人数	求人数	紹介件数	紹介数	求人事業所数	求人数	求人数	紹介件数	紹介数
4	土工雑役職人手他	101	239	900	225	225	2	3	3	3	3
	運 転	33	68	119	36	36	10	11	24	8	8
	の 計	14	22	80	34	34	9	11	34	20	20
	計	148	329	1,099	295	295	21	25	61	31	31
5	土工雑役職人手他	84	203	836	334	334	4	7	7	13	13
	運 転	29	58	95	25	25	7	10	14	12	12
	の 計	10	18	65	43	43	11	13	30	18	18
	計	123	279	996	402	402	22	30	51	43	43
6	土工雑役職人手他	59	231	820	459	459	5	7	10	18	18
	運 転	30	67	107	48	48	3	3	12	6	6
	の 計	7	16	41	24	24	3	3	7	29	29
	計	96	314	968	531	531	11	13	29	53	53
7	土工雑役職人手他	84	308	1,030	436	436	4	5	24	3	3
	運 転	32	80	107	48	48	5	8	17	2	2
	の 計	9	42	64	53	53	3	8	22	12	12
	計	125	430	1,201	537	537	12	21	63	17	17
8	土工雑役職人手他	117	324	1,075	477	477	3	4	14	4	4
	運 転	35	61	79	32	32	3	4	4	2	2
	の 計	6	15	32	28	28	1	3	17	3	3
	計	158	400	1,186	537	537	7	11	35	9	9
9	土工雑役職人手他	153	348	1,391	417	417	4	5	14	3	3
	運 転	41	95	133	52	52	1	1	1		
	の 計	18	40	58	42	42	2	3	4	8	8
	計	212	483	1,582	511	511	7	9	19	11	11
10	土工雑役職人手他	171	435	1,878	403	403	3	6	22	6	6
	運 転	42	92	128	56	56	2	2	2		
	の 計	7	14	72	33	33	4	9	22	13	13
	計	220	541	2,078	492	492	9	17	46	19	19
11	土工雑役職人手他	183	395	2,123	401	401	5	6	7	1	1
	運 転	35	58	82	41	41					
	の 計	8	16	50	26	26	4	4	4	5	5
	計	226	469	2,255	468	468	9	10	11	6	6
12	土工雑役職人手他	170	217	2,187	317	317					
	運 転	31	37	65	35	35					
	の 計	9	18	25	21	21	1	1	1		
	計	210	272	2,277	373	373	1	1	1		
1	土工雑役職人手他	192	418	2,104	478	478	2	2	4		
	運 転	34	40	60	50	50	3	3	5	1	1
	の 計	12	22	37	19	19	4	5	13	10	10
	計	238	480	2,201	547	547	9	10	22	11	11
2	土工雑役職人手他	218	440	3,024	400	400	1	1	1	1	1
	運 転	34	46	79	40	40	2	2	3	1	1
	の 計	10	15	44	24	24	2	5	6	16	16
	計	262	501	3,147	464	464	5	8	10	18	18
3	土工雑役職人手他	239	479	4,644	359	359	1	1	3	2	2
	運 転	39	56	97	41	41					
	の 計	6	8	13	5	5	2	2	7	7	7
	計	284	543	4,754	405	405	3	3	10	9	9
合 計	土工雑役職人手他	1,771	4,037	22,012	4,706	4,706	34	47	109	54	54
	運 転	415	758	1,151	504	504	36	44	82	32	32
	の 計	116	246	581	352	352	46	67	167	141	141
	計	2,302	5,041	23,744	5,562	5,562	116	158	358	227	227
51 年度合計	土工雑役職人手他	1,002	2,849	10,409	3,391	4,048	54	75	283	82	101
	運 転	363	721	977	410	421	77	139	179	97	98
	の 計	80	190	620	199	249	84	107	231	103	115
	計	1,445	3,760	12,006	4,000	4,718	215	321	693	282	314

期間雇用及び常用の賃金状況

		土 工 雑 役	職 人 (大工 等)	各 種 職 人 手 元	会 社 雑 役	大 型 特 殊 運 転 手	普 通 運 転 手	夜 勤 (土 工)	夜 勤 (会 社)	オール ナイト (船内)	炊事婦 (月 額)	食 費
4	最高賃金	7,790	7,790	6,500	6,790	9,790	7,000	9,000			100,000	1,000
	最低 "	4,300	6,790	6,000	4,500	5,500	5,000	7,000			60,000	400
	平均 "	5,364	7,234	6,166	5,172	7,001	6,158	7,880		14,836	79,375	790
		(4,600)	(6,200)	(5,400)	(4,600)	(5,500)	(5,500)				(78,000)	(710)
5	最高賃金	8,300	8,300	7,000	6,800	7,300	7,300				80,000	1,000
	最低 "	4,300	5,500	4,800	4,500	5,800	5,000				40,000	500
	平均 "	5,430	6,406	5,830	5,970	6,880	6,335	8,000		15,265	62,000	800
		(4,600)	(6,500)	(4,800)	(4,600)	(5,700)	(5,500)				(60,000)	(740)
6	最高賃金	6,500	12,000	7,000	6,800	7,600	7,000					1,000
	最低 "	4,200	6,000	5,600	4,800	6,000	4,300					300
	平均 "	5,195	7,190	6,300	5,110	6,870	6,070	8,000		15,265	80,000	800
		(4,600)	(6,400)	(5,200)	(4,700)	(6,200)	(5,300)				(75,000)	(760)
7	最高賃金	7,500	9,000	7,500	6,800	7,800	7,000					1,000
	最低 "	4,000	6,500	5,000	4,800	5,800	5,000					500
	平均 "	5,345	7,763	5,850	5,650	6,800	6,100	8,000			80,000	800
		(4,700)	(7,000)	(4,800)	(4,700)	(6,200)	(5,400)				(51,000)	(760)
8	最高賃金	10,000	9,000	7,500	5,800	7,300	7,800					1,000
	最低 "	4,300	6,000	5,500	5,000	6,800	5,500					500
	平均 "	5,360	6,900	5,800	5,400	6,850	6,200	8,000		15,265	70,000	800
		(4,800)	(6,900)	(5,400)	(4,800)	(6,100)	(5,700)				(90,000)	(760)
9	最高賃金	7,000	8,820	7,320	6,820	7,820	7,820	9,000				1,000
	最低 "	4,300	6,820	5,500	5,320	6,000	5,320	7,000				500
	平均 "	5,540	7,840	5,900	5,630	6,900	6,200	8,000	7,000	15,265	70,000	820
		(4,900)	(7,100)	(5,400)	(4,900)	(6,500)	(5,800)				(50,000)	(780)
10	最高賃金	7,500	8,810	7,500	6,810	7,000	7,210				85,000	1,000
	最低 "	4,300	7,000	5,310	4,300	6,000	5,500				60,000	500
	平均 "	5,407	7,929	5,850	5,016	6,625	5,910				77,000	810
		(5,000)	(7,400)	(5,400)	(4,800)	(6,100)	(6,000)				(75,000)	(790)
11	最高賃金	7,000	9,000	7,500	6,000	8,000	7,000	12,000			80,000	1,000
	最低 "	4,500	6,815	5,315	4,000	6,000	5,000	6,500			50,000	300
	平均 "	5,495	8,089	5,850	5,055	7,363	6,395	7,950			70,000	815
		(5,100)	(8,900)	(6,200)	(5,100)	(6,400)	(5,900)				(70,000)	(770)
12	最高賃金	7,000	10,090	7,000	6,140	8,840	7,200	12,000			90,000	1,000
	最低 "	4,500	7,000	5,840	4,500	6,840	5,000	7,000			50,000	600
	平均 "	5,493	8,186	5,953	5,227	7,670	6,459	9,000			70,000	840
		(5,100)	(7,500)	(5,800)	(5,000)	(7,000)	(5,600)				(70,000)	(780)
1	最高賃金	7,000	12,000	6,840	6,500	8,840	10,840				130,000	1,000
	最低 "	4,500	7,000	5,000	4,500	5,500	5,000				50,000	700
	平均 "	5,489	9,053	6,104	5,050	7,345	6,654	7,340			78,750	840
		(5,000)	(6,800)	(5,300)	(4,800)	(6,400)	(5,800)				(85,000)	(800)
2	最高賃金	7,000	10,840	6,840	5,840	10,000	7,500				130,000	1,300
	最低 "	4,500	7,000	5,000	4,500	6,840	6,000				70,000	700
	平均 "	5,516	8,230	5,936	5,445	7,863	6,481				88,000	840
		(5,200)	(7,000)	(5,600)	(5,000)	(6,800)	(5,800)				(79,000)	(790)
3	最高賃金	8,345	12,845	6,845	6,345	15,000	8,845				100,000	1,200
	最低 "	4,500	6,500	5,800	4,500	6,845	5,500				50,000	700
	平均 "	5,593	8,400	6,375	5,552	8,195	6,375	8,000			80,000	845
		(5,300)	(7,700)	(6,600)	(5,300)	(6,100)	(5,900)				(78,000)	(800)

(注) 最高賃金で喰いぬき(食費0円)の場合平均食費を加算した。

期間雇用関係の事業所は登録をしない限りセンターの就労あっせん（相対方式を含めた）を受けられないことになったのと、建設業の景気の回復によって労働力の需要が高まったこととで、52年度の期間雇用関係の新規求人事業所は前年度を40%も上回る316事業所となった。もっとも、これには就労関係の正常化をめざしたセンターの幾つかの取り組み（後述）に負うところも大きかった。

求人申込事業所総数も、今年度は668事業所となり、前年度の356事業所を90%も上回った。

期間雇用の求人を行う事業所は、月平均で192事業所、求人数は1,979名で、前年度よりそれぞれ40%増、98%もの増となった。求人数で11月以降急激に増えているのは、相対方式による直接求人の求人数の把握について、申込み当日分だけであったのを月間求人数に変更したことによるものである。

全体として求人数が大巾に増加しているにもかかわらず、紹介数の伸びは20%増にとどまった。したがって求人充足率は大巾に落ちこみ24%となった。これは、就労関係の正常化のためにセンターが求人事業所に対しておこなった登録・求人の指導が、必然的にセンターの紹介業務に対する事業所の期待を強め、大巾な求人増をもたらした反面、現金求人の増加により、期間雇用（飯場）就労を敬遠する労働者が増えたことによるものでもある。

ただ、ここで心配なことはこの様に求人充足率が低下すると、折角センターの紹介に乗かってきた事業所をふたたび、手配師の方に押しやることにもなりかねないということである。さいわい、今のところ、期待には十分にこたえられないとは云え、事業所からの求人申込みは続き、労働者も、窓口成群がって求人票を見ている。このことは一方では、センターの窓口での紹介が手配師の介在を排除することであり、事業所、労働者の双方からも基本的には望まれている方向であることを物語っている。

求人者、求職者から喜ばれる紹介体制を作りあげることが、地区の明るい就労関係を作っていくためにもぜひとも必要なことであろう。労働者の求職

相談を僅か2名の職員で受けている現状を、まず機構的・人的に改善することが求人充足率を高めてゆくことにもなってくる。

期間雇用関係の求人者に対する指導は、就労正常化のとりくみの中で、別掲の様な形で推し進められ、センター寄場内での求人も少しずつ改善されてきている。いまでは、プラカード未掲示の求人事業所が、労働者の指摘により、センターに登録する例をみるまでになり、雇用条件の不明確な事業所には、労働者も就労をさげ、センターを利用するようになってきた。

期間雇用の紹介で困るのは、求人・求職のアンバランスが大きいということである。

求人の減少する「梅雨時」「盆」「年末・年始」には、労働者が仕事を求めて窓口に訪れ、気候のよい秋や、年度末など工事の集中する時期には、事業所からの求人申込みが殺到するが、労働者は現金仕事の方へ流れるといったようなことである。梅雨時や、年末には、事業所へ求人開拓の呼びかけを行い、労働者にはその様な時期に入る前に飯場へ就労するようにすすめている。

建設業が多注産業であることから、景気の好・不好に特に敏感に反応することや、屋外作業が多いために、雨や寒冷などの天候に左右されるなど、で雇用の不安定さを作り出している。幸い、雇用保険の手帳所持者は1万5千人にも及ぶほど行きわたり、仕事にアブレた時の地区労働者の大きな生活の支えとなっている。しかし、アブレ手当の受給資格をとるためには、前2ヶ月に28日以上働かねばならず、このような雇用の不安定さの中では並大低なことではない。10日契約、15日契約などの期間雇用への就労は、この点、計画の立つ働き方として役立っているようである。

就労先としては、期間雇用の場合は現金求人と違って、大阪府下より、他府県の方が多くなっている。建設業の求人が最高となった年度末の53年3月度の期間雇用の求人件数は404件であったが、大阪は178件、以下、兵庫が89件、京都39件、奈良37件、滋賀29件となっている。近畿圏外で愛知県が23件もあることは注目に値しよう。雇用保険の普及などもあ

って、あいりん地区の日雇労働市場としての包容力は、東京の山谷、横浜の寿町、名古屋の笹島よりも、一段と大きくなっており、遠隔地からの当地区への求人を増やす要因となっている。

賃金は、期間雇用の場合一定期間拘束されるということもあって、現金求人よりも約500円程高いものとなっている。土工雑役の平均賃金は5,200円～5,600円となっており、前年度の4,600円～5,300円より600円～300円高くなっている。

労働者の就労先選択の基準は、賃金と契約期間が、大きな要件となっている。地区労働者の就労傾向としては、同一職種でも、6千円1ヶ月の契約より、5,500円10日契約の方を好み、求人の充足も早いようである。また、食事代を差引かない「喰いぬき」の条件の方が、若干賃金が高いのよりも優先している。

期間雇用の場合はこのほか、宿舍の状況や雰囲気、食事の良し悪しなども大きな要素としてみられている。

労働者の定着をはかるため、福利厚生面でいろいろと心くばりをしている事業所もあり、不安定な雇用関係にある地区労働者に、より安定した生活をしてもらうためにも、このような事業所を増やしていくことが必要である。

(2) 常用紹介

52年度の一般常用求人は、358名と、昨年度より50%減となった。高度経済成長時代には、センターにも、製造・運輸・サービス業などの常用求人が来ていたが、不況はその様な求人を皆無にした。

現在、センターに常用求人としてきているのは、建設業で働く、常用の運転手や、寄宿舍（飯場）の炊事婦がほとんどである。運転手も傾向としては1ヶ月契約の求人が常用にとって代り、炊事婦は、世帯もち労働者が少ないということもあって、紹介できた数は少くなっている。

型にはめられ、拘束される常用就職を嫌う労働者も居るが、基本的には、労働条件のよい、安定した、望ましい常用求人が、地区に来ないということが、常用就職を少くしているということである。

「地域の労働者を正規の労働につかせ、生活を安定させること。」が、センターの役割であることを考えれば、これらの常用求人の拡大、開拓のための一層の努力が必要となってくる。



朝食をとる労働者（センター寄場2階にて）